

新規実施検査項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。
このたび、下記検査項目を新たに受託開始しますので、
ご利用いただきたくご案内いたします。

敬具

記

■ 受託開始日

2018 年 12月 10日 (月) ご依頼分より

■ 新規項目内容

| 項目コード | 検査項目 | 検体量 (mL) | 容器 | 検査方法 | 実施料 判断料 | 基準値 (単位) | 備考 |
|-------|-------------------|-------------|-----|-------|-----------------------------|--|------|
| 2998 | 25OHビタミンD (ECLIA) | 血清 0.5 | S-1 | ECLIA | 117点 144点 生化学的 (I) | ビタミンD欠乏 20.0未満 ビタミンD不足 20.0~29.9 (ng/mL) | 裏面参照 |

● 25OHビタミンD (ECLIA)

体内のビタミンD不足・欠乏状態の評価に有用な検査です。

ビタミンDは、食事からの摂取に加え、紫外線の照射によって皮膚で産生される脂溶性のステロイドホルモン前駆体です。体内で活性型ビタミンDに変換されることで、腸管からのカルシウムおよびリンの吸収を高め、骨・ミネラル代謝の維持において重要な役割を担っています。体内のビタミンD充足状態の評価には、安定な代謝産物として血中に存在する25OHビタミンD濃度が用いられています。

体内のビタミンD貯蓄量の減少によるビタミンD作用の低下は、カルシウム代謝異常を生じ、骨粗鬆症の発症要因となります。骨折・転倒リスクの上昇につながるほか、二次性副甲状腺機能亢進症およびビスホスホネート等の骨吸収抑制剤に対する反応性低下の原因となります。ビタミンDの不足・欠乏は決して稀ではなく、Japanese Population-based Osteoporosis(JPOS)研究において、50歳以上の女性1,211例の血中25OHビタミンD濃度を測定した結果、ビタミンD欠乏例の占める割合は52%、不足例38%であり、その後の追跡調査でビタミンDの血中濃度が低いほど将来の骨折リスクが上昇することが示唆されています。本検査は、血清中25OHビタミンDをECLIA法により測定いたします。骨粗鬆症を始めとする代謝性骨疾患におけるビタミンD不足・欠乏状態の判定補足に有用です。また、高齢者の骨折予防を目的とした健診での活用が期待されています。

▼ 疾患との関連

骨粗鬆症

▼ 関連する主な検査項目

骨吸収マーカー (TRACP-5b、NTx、DPD)
骨形成マーカー (totalP1NP、BAP)
骨マトリックス関連マーカー (ucOC)

● 参考文献

Batista MC, et al : Clin Chem Lab/doi :10.1515/cclm-2018-0406 : Jun 11, 2018.

(検査方法参考文献)

Tamaki J, et al : Osteoporos int28 (6) :1903~1913, 2017. (臨床的意義参考文献)